

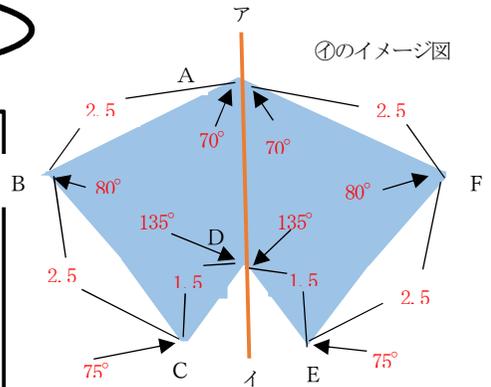
○対称な図形 第2時 教科書P.10～11 (解答編)

学習を始める前の準備と注意です。

- ・前の時間に使った5つの図形①②③④⑤のなかの①を使うので、準備しましょう。
- ・図形①を無くしてしまった場合は、教科書P.10を開いて、P.10の下の図(図形①と同じ図)を使って学習を進めます。ただし、P.11は見ないようにします。
- ・図形①がある場合は、この時間の学習は、このプリント学習が終わるまで、教科書を閉じておきましょう。
- ・この学習プリントは、半分に折って、右側が終わってから左側を見るようにします。
- ・物差しと分度器を使うので、準備しましょう。

ここから学習スタート! では、問題です。

- 2 前の時間に使った図形①は、線対称な図形で、右のイメージ図のように、図形の真ん中に直線アイをかくと、それは対称の軸になります。
(右の図は、図形①のイメージ図に頂点に記号を入れました。図形①とは大きさや形が少しちがいます。)
今回の学習では、図形①を使って、線対称な図形の性質を調べます。



考えてみよう!

- (1) 線対称な図形の性質を調べるためには、図形のどんなところに注目したらよいでしょうか。(箇条書きで、最低2つは考えて書いてみよう。)

- ・(二つ折りにしたときに重なる) 辺の長さ
- ・(二つ折りにしたときに重なる) 角の大きさ

※ (1)の答えが分からない場合は解答編を見て、(1)の答えだけを確認し、記入しましょう。
※ここが終わったら、2枚目のプリントを見てよいです。この後は、両方のプリントを見ながら学習を進めます。

新しい知識を身に付けよう。ここは、正確に暗記だよ。

ここで、学習を進めやすくするために、図形学習で使う用語を伝えます。
線対称な図形で、二つ折りにしたときに重なり合う「辺」、「角」、「点」を、
それぞれ、「対応する辺」、「対応する角」、「対応する点」といいます。

では、図形①と定規や分度器を使って、線対称な図形の性質を確かめていきましょう。この時間は、図形①の「対応する辺」と「対応する角」について調べます。

(2) 「対応する辺の長さ」と「対応する角の大きさ」を、図形①を使って調べよう。

- 「対応する辺」

	長さ	対応する辺	長さ
辺AB	(2.5 cm)	→(辺AF)	(2.5 cm)
辺BC	(2.5 cm)	→(辺FE)	(2.5 cm)
辺CD	(1.5 cm)	→(辺ED)	(1.5 cm)
- 「対応する角」

	角度	対応する角	角度
角Aの左半分	(70度)	→(角Aの右半分)	(70度)
角B	(80度)	→(角F)	(80度)
角C	(75度)	→(角E)	(75度)
角Dの左半分	(135度)	→(角Dの右半分)	(135度)

※調べた結果を、前のページの「①のイメージ図」に書き込みましょう。→前頁図形①参照

(2)で調べた結果から、線対称な図形の性質を言葉でまとめてみよう。

線対称な図形では、**対応する辺の長さや、対応する角の大きさは、
(等しく)** になっている。

(3) まとめをした後に、算数が得意な友達が言いました。

「それはそうだよ。だって、線対称な図形を対称の軸で折ったら、対応する辺や角は(ぴったり重なる)のだから。つまり、対称の軸で分けた2つの図形は、(合同)になっているってことだよ。」

彼は、何と言ったでしょう。()に当てはまる言葉を入れましょう。